

2019年(平成31年)3月10日(日曜日)

三島ブランド米開発へ試食

NPO関係者らが水稲4種

三島市のNPO法人「グリーンセンター」(GW)三島が、三島産のブランド米開発に向けて同市梅名の水田で昨年栽培・収穫した水稲四種類の試食会を、同市芝本町の三島街中カフェで開いた。写真。

三島市のNPO法人「グリーンセンター」(GW)植物イノベーションセンター(磐田市)が開発した未登録品種。試食会にはGW三島やJTの関係者、地元生産者ら十一人が参加し、「どの品種も香りも味も良く、冷めてもおいしく感じた」「炊きあがりのつやがきれい、粒張りが良い」などと意見を交わした。

二年目となる今年は、栽培しやすさを考慮し、四品種から三品種に絞って試験栽培を続ける。三年目の来年は試験栽培を終え、産地品種銘柄の申請をする。

GW三島の渡辺豊博専務理事は「世界かんがい施設遺産と世界水遺産の登録を受けた源兵衛川の水から生まれた『三島米』として世界一のブランド米を目指し、新たな農業生産者が増え、耕作放棄地が解消されるよう、農業の活性化を促進したい」と話した。

(佐久間博康)

